

しみに致しておりました。

先生は幼稚園の保育がいわゆる「おしつけ保育」「さずけ保育」であることにあきたりなさを感ぜられ、一人一人をよく守ること、このために小さいグループに分れること、「自由保育」の形態をとること、等を古くから称えられ幼児教育に一新生面をお開き下さいました。

戦後新教育が叫ばれ「一斉保育」か「自由保育」かと保育の方法やら形体を論ずるようになったとき、その昔すでに先生の御指導による「お茶の水附屬幼稚園」のこの保育を拝見させて頂いたことを思い合わせ、実に愉快に感じました。

又幼稚園で行っている「会集」についても、先生は一つの意見をもっておられました。先生は会集不要論者であられましたが、前記の「自由保育」を称えられる先生にしてこれは当然のことでありましょう。ただ先生が随分昔からこのことを叫ばれたその御卓見には全く敬服の他はございません。

先生は実に子供を守る護神とも言うべき方で、先生の子供に対する御真情は、御著「保育真諦」「子供讃歌」にはっきり現われております。

幼稚園と言うところが「人間形成」の大きな職場であり、子供達の真の幸福をただ一つの願いとして日夜努力している私達は、先生の偉大な御教えをすっかり身につけ更に精進の日をつづげたいと思っております。

先生の御冥福を祈るとともに、その御偉業に対し心からの感謝を捧げる次第でございます。（明石市立播陽幼稚園長）

## 故、倉橋先生の

## 思い出

玉川喜代子

△

——忘れもしない大正八年十一月十三日——チラチラチラ小雪降る東京駅頭の混雑の中に私共女高師の保育実習科の生徒達は、机を並べて倉橋先生御渡欧のための、お見送りの方の受付をして居りました。其の時の倉橋先生は、一分の隙もない、実にリュウとした、お姿で、大勢の見送り人に御挨拶をされ乍ら私の前まで進んで来られました。

青いおひげそりの後の、クリームの匂いが、今も、はっきり、私の触感の中にあります……

こんな事を或る時の、みどり会の席上でお話致しましたら

倉橋先生は、大いそぎであごを撫でて、その匂をかぐ真似をなさいました。及川先生始め、出席の会員一同の爆笑の中から鎌田先生も、「太平洋の広さかな」なんて、無電を下さって、本当に先生らしいって皆で胸を、おどらせたものでした」と話に花が咲きましたが……

クリームの匂い丈はあれから卅六年間まだまだ、否え、大、倉橋先生の思い出と共に私の一生涯忘れ得ない先生のおかたみとなっていました。

△

終戦となった、とたん、本気で本気で国家の大難に心身共に殉じていた私は、それ丈に、眼の前が真黒闇となり、立ち上る気力も失せ、万策つきて、心から先生に教えを乞いました。其の時、御多忙の先生から西洋紙四枚にびっしりと、直ぐに、御返事を下さいました。文字通り押し載いて再読、三読、はては暗誦するまでくりかえす中に、何か、ハッと靈感のようなものがかすめました。「そうだ、柔かくその一人一人をのばして行こう」そして私は立ち上る事ができました。前から先生は、天皇、皇后、両陛下に御進講遊ばし、「保育の真諦」「幼稚園の雑草」などの御著書も多く、殊に先生の御講義の面白さは、真夏の講習でも、居眠り所か、ランラシと眼を輝かし、夢我の境地で、ききほれたといった方が早いかと思います。

然もその御講義を園児の上に反映させようと思えますと、とてもむつかしく、又其のむつかしい所が、たまらない魅力でもあって、追従を、許さぬ、先生独特の高い理想の下に、日本中の保育会を、ぐんぐんぐん率いられて、幾十年、全く先生は、我が国保育会の太陽であられました。

△

幼稚園が学校教育法の中にはいった事に就て、「其の国家の信任に答える丈になつてくれ」と我々をはげまされ、東に西に、講師として、席あたたまるお暇とてなく、余りの御無理のためか、ついに先生が、御病床の人となられ、そして夏の講習会にも、おでかけになりませんでした。さあ講習員一同の心配は、一とおりでなく、ついに会員一同の醸金となつて代表を以て御見舞に参上する事になりました。そこで及川先生が、倉橋先生の所にお電話をおかけになりました。

「唯今、会津磐梯山が、五六人の方々とお見舞に伺います。」そして広島中央幼稚園の宮内重太郎先生、愛媛今治市の田坂ユキ先生、呉市の利島先生などの先生方と御一緒に、始めて伺った倉橋先生の御住所、可愛いお孫様のお迎えを受け何か先生の御住所らしく、物さびた落ちついた奥ゆかしい応接室でございました。会員一同よりの心をこめた醸金と果物籠を、お受け願ひ乍ら、口口にお見舞を申しあげました事に對し、割とお元氣な倉橋先生は、いろいろ御病氣について、

お話下され、奥様から、お手厚いおもてなしを戴きました。あの事も、この事も、みんなみんな大、倉橋先生をお偲び申上げる一こまであって、余りにも大きい先生の御あとは、口下手な私の、到底よくする事ではございません。唯、唯、心より偉大なる我等の太陽、倉橋先生の御冥福をお祈り申しあげる次第でございます。

(福島県若松幼稚園長)

## 倉橋先生の御霊前に 御詫とお禮と

田坂ユキ

四月二十二日の朝のニュースで先生の御逝去を突然に伝えられました。昨年の六月研究会でお茶の水幼稚園へ参りました時に中野のお宅へお訪ねいたしました。「よく肥つたでしょう、元氣になりましたよ」とにこにこしながら玄關迄お出かけ下さいましたあのやさしいお姿。崇高な先生の御尊顔が目前に浮んで胸が一ぱい。ラジオの前に立ちすくんでしま

ました。又来る六月の研究会に上京して先生にお目にかかりお話申上ますことを楽しみにしておりましたに。遠い土地のことで告別式にも間に合いません、誠に済まないと思っております。

お茶の水のバラックの幼稚園時代から大塚の新築に移ります頃の御元氣な御姿を思い出しまして、終戦後九月から又幼稚園も始めましたよ。勇ましくやっていますよ、と云うお葉書を頂いてお案じ申上げておりました先生に、翌年の五月にお久しぶりに園長室で倉橋先生と及川先生とお互に無事を喜びあい、幼稚園も無事先生方も御無事私の方も戦災のため市中に唯一つ残された園であつたことを涙ながらに、

「又やりましたよ、戦うことよりも平和はまだ一層困難だよ」とおっしゃいました。東京大しん災後から今日迄三十余年の長い間、何かと細々幼児教育について御指導いただいた私共は幸福で座御いました。毎夏の文部省の講習は必ず出席し岡山、神戸、大阪、京都とそのつど受講いたしました。私は一層深く先生の御教に預れた者として厚く御礼申上ますばかりです。

今一つ先生の御霊前にお詫び申上ねばなりませんことが御座います。それは戦が激しくなろうといたします昭和十二年の九月に四国四県の保育大会を愛媛県で開くことになりました。特別講演に倉橋先生にお越し願うことになりました、